

Hanneke van Santen 医師は

オランダの小児内分泌科医でウィルヘルミナ小児病院/プリンセス・マキシマ小児腫瘍センターユトレヒト大学の准教授です。小児がん治療後の

ホルモン異常、小児甲状腺がん、小児期の頭蓋咽頭腫を専門としています。



アムステルダムでの医師研修の後、ユトレヒトに移り、プリンセスマキシマセンターにて小児がん患者のホルモンコントロールの診療に取り組みました。また臨床医学の研究者として海外の研究者との多くの共同研究をしています。

ヨーロッパ甲状腺学会小児甲状腺腫瘍診療ガイドライン作成チーム、がん治療中または治療後の小児における甲状腺障害および成長ホルモンの安全性の検討を含む視床下部・下垂体障害に関するガイドライン作成グループ、ヨーロッパ小児がん学会頭蓋咽頭腫ワーキンググループの議長を務めています。

小児がん治療後の内分泌への影響を研究テーマとしており、これまでに **100** 以上の論文を共著しています。特に視床下部、脳下垂体、および甲状腺の研究に重点を置いています。がんと診断された子供の内分泌系を正常な状態に保ち、治療中および治療後の子供の正常な成長と発達を促すことを目指しています。現在、**6** 人の博士課程の学生と複数の医学部生を指導しています。